

脳内出血の部位により脳卒中や心筋梗塞の発生リスクに差

自然発生の頭蓋内出血の既往のある人は、頭蓋内出血の再発や虚血性脳卒中、心筋梗塞を含む主要な心臓血管イベントのリスクが高い。本研究では、自然発生の頭蓋内出血の部位が脳葉型か非脳葉型かで出血後の主要心臓血管イベントのリスクに差があるのかについて、大規模コホート研究を実施し検討した。

対象は、南デンマークにおいて 2009 年 1 月 1 日～2018 年 12 月 31 日に初発の自然発生頭蓋内出血で入院した 50 歳以上の患者 2,819 例で、頭蓋内出血の発生部位により、脳葉型と非脳葉型に分類した。解析対象となったのは 2,289 例で、非脳葉型の頭蓋内出血患者が 1,255 例（男性 54%、平均年齢 73.5 歳）、脳葉型の頭蓋内出血患者が 1,034 例（同 47.9%、75.2 歳）であった。主要心臓血管イベント発生率は、非脳葉型の頭蓋内出血患者と比べ、脳葉型の患者で高かった（100 人・年あたり 7.91 対 10.84、調整ハザード比 1.26）。また、頭蓋内出血再発率についても、非脳葉型の頭蓋内出血患者と比べ、脳葉型の患者で高かった（100 人・年あたり 1.24 対 3.74）。一方、虚血性脳卒中（脳葉型：100 人・年あたり 1.45、非脳葉型：同 1.77）や心筋梗塞（脳葉型：同 0.42、非脳葉型：同 0.64）の発生率には部位による差はみられなかった（調整ハザード比はそれぞれ 0.81、0.64）。

したがって、非脳葉型の頭蓋内出血に比べ、脳葉型の頭蓋内出血で主要心臓血管イベントの発生頻度が高く、これは主に頭蓋内出血の再発率が高いことに起因していることが示唆された。脳葉型の頭蓋内出血患者に対しては、頭蓋内出血の再発予防戦略が重要である。

出典：Journal of American Medical Association. Network Open. 2023 Apr 3; 6(4): e235882.